

# デイサービス 日和

## 第11回運営推進会議報告書

管理者 安藤 真由美

下記要領にて第11回運営推進会議につきまして、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、書面での開催とさせて頂きましたことご報告いたします。

### 記

#### 1. 参加者：計 9 名

内訳 管理者 安藤 真由美  
生活相談員 滝 真二  
江南市高齢者生きがい課様  
江南中部地域包括支援センター様  
民生委員 荒田 様  
利用者代表 佐々木 様  
家族代表 滝 様  
家族代表 壺井 様  
地域代表 岩根 様

#### 2. 会議の文書を各出席者様に郵送でお送りさせて頂き、ご意見やご質問を賜りました。ご協力いただきました方々のご意見、ご質問及び回答は以下の通りとなります。

##### ・江南中部包括支援センター様 よりの意見

事例の共有ありがとうございます。デイサービスの見た本人、娘の姿がとてもよく伝わってきました。デイサービスの視点で考える事例検討や共有の場があるといいと感じました。

##### ・民生委員 荒田 様 よりの意見

デイサービスは高齢者にとっては行くと楽しく、優しく、自分が何かできそうで平穩、安心できる所とおられるのでは。このような事を考え、事故がないように支援されている職員の方々は大変なお仕事ですね。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止で、誰とも気軽にお喋りができない状況です。皆さま、ご健康に注意され、お仕事がんばってください。

##### ・家族代表 滝 様 よりの意見

98歳・女性利用者と73歳・娘「老いと向き合う」事例を読んで、しばらく何も手につかないほどの衝撃を受けました。まだまだ私自身、若いつもりでいましたが、後5年で私

も70歳。母も93歳になり、これ事例と重なります。このお二人両方の気持ちが痛いほどわかり、今後に不安を感じました。今後も日和さんを頼りにしていますので、色々相談にのってください。皆さん、ワクチン接種が終了し、私たち家族も終了しましたが、不安な日々は続いています。身体に気を付けて頑張っていたきたいと思います。

・家族代表 壺井 様 よりの意見

「老いと向き合う」、まさに我が家と同じ、と思って読ませていただきました。スタッフの皆さんの紹介（人数、年齢など）あるといいなと思いました。

・地域代表 岩根 様 よりの意見

「老いと向き合う」事例を拝読し、介護はご本人の問題だけでなく、家族の問題である事を痛感しました。ご本人の生活の質の向上をさせるためにも、ご家族の支援も併せて行っていかなければならないのですね。丁寧に両者の話を聞き、寄り添う日和さんの姿勢に頭が下がりました。

現代では、個人情報の壁がたちふさがり、なかなか利用者さんそれぞれの家庭への支援に入る難しさがあることと思います。小規模である利点を生かし、出来る限りの支援とサービス提供をお願いいたします。

推進会議の機会をいただき、日和さんの事業の様子を見させていただく事ができ、とてもうれしく思います。ありがとうございました。

・江南市高齢者生きがい課様 よりの質問

A. エアコンを消して、かき氷を食べたり、屋外で流し素麺をしたり、季節を感じるように工夫されているのがよくわかりました。この夏、暑さで影響が見られた方はいましたか。

Q. いませんでした。日中独居の方で、あまり水分を積極的に摂られず、毎年熱中症気味になる方がいますが、これまでの問題に対して、早めに家族と対策を講じる事で、体調に問題なく過ごされました。

家族が夕方エアコンタイマーをセットされました。お送り時に室温に合わせて扇風機を回す対応をしました。水分補給は声かけだけでは不十分なため、冷蔵庫のお茶を出して手渡しをし、飲んで頂きました。

お迎え時の体温が高めのため、日和で手作りされたクールネックタオルで冷やしたり、入浴後はスポーツドリンクを提供しました。

他の独居の方もお送り時に、エアコンをつけるまでの暑さではない日には、室温計を確認をし、窓を開けるようにしました。

・江南中部包括支援センター様 よりの質問

A. 事例で、ケアマネとのチームアプローチをどのように展開していたのか、知りたいです。

Q. 事業対象者であり、週1回のご利用で、これまではさほど問題はありませんでした。娘様とケアマネの関わりがほとんどなく、一気に問題が山積みになったため、担当者会議を開いて頂くようお願いしました。事前に、ケアマネに、これまでの経緯や娘様のご性格についてお伝えをし、娘様がお母さんの老いを受け入れていない、受け入れたくない様子をお話しました。受け入れてもらえるように、他者の例や、コロナ禍で入院をしたら面会できないこと、高齢になれば簡単には回復しない事などをお伝えしていく事で方向性を統一しました。はじめはお二人のこだわり、生き方が壁となって聞き入れてもらえませんでした。が、「コロナ禍の入院は全く面会ができない」とお伝えした時に腑に落ちたようでした。

その後、転倒、骨折、入院となり、娘様から色々な悩みをLINEで相談され、その都度ケアマネに報告し、毎日のようにやりとりをしました。

退院され、デイサービスの利用が再開となりました。介護が初めての娘様はわからない事ばかりで、ご苦勞をされていました。

デイサービスでのケガの処置方法をかかりつけ医の看護師に電話で指示を受ける際に、本人や娘様の心身状態を聞き、自宅での介護についても皆で方向性を合わせてアドバイスをしました。

再び、転倒、ケガ、骨折をされました。

デイサービスで過ごす体力、気力がないたため、1か月以上休まれました。休まれている間も、ご本人、娘様、主治医、ケアマネ、デイサービスと状態の共有を続けてきました。励ましたり、1日過ごすのが無理なら迎えに来てもらいましょう、などと少しずつ皆で背中を押す事で、先日やっと利用再開されました。思ったよりもお元気で、1日過ごす事が出来ました。

・家族代表 滝様よりの質問

Q1, 資料を見て、要支援の方がいない事に驚きました。母が通い始めた頃は要支援の方も多く、イベントで自分のあげ寿司は自分で作られたお話を聞きましたが、今年は母一人が作ったと聞き、驚きました。最近は車椅子の方も多くなり、以前に比べてどんな状況になっているのでしょうか。

A. デイサービス 日和は今年で7年目になりましたが、5年以上通って頂いている方がまだ多くいらっしゃいます。利用当初、要支援の方も、5年以上経つとやはり介護度が上がっています。同時に、利用当初から90歳を過ぎていらっしゃったり、90歳に近い年齢から通ってくださっているのです、やはり介助量は増えています。これまで出来ていた事も出来なくなっている方が多くなっています。

7年前は車椅子を使用されている方は送迎時にお一人のみでしたが、5~6年の間に加齢により、認知症により歩行が困難になったため、車椅子を使用されている方

が増えました。

車椅子を使用されるレベルですと、日和のような家庭風呂では入浴介助も正直大変ではありますが、慣れ親しんだデイサービスでなるべく過ごさせてあげたい、というご家族のありがたいお気持ちもあり、工夫をして介助をしています。

これまで、日和での対応が困難になって別の施設に行かれた方が、しばらくしてすぐに亡くなられたという事が2人いらっしゃいました。デイサービスを変った事が原因ではないのですが、もう少しご支援をして差し上げたかった気持ちが生まれ、その後は長く日和を利用して頂けるようにさらに努力をしながら支援をさせて頂いています。

新規の方も、スムーズにデイサービスをご利用できるレベルの方ではなく、他のデイでうまく利用が出来なかった方や、認知症度が高い方の利用が多いため、なかなか調理で活躍をして頂くまで至らず、現在は滝様のお母様に一人でいなり寿司を作って頂くような状況です。

Q 2, 以前はよくお出かけをされていましたが、新型コロナの影響で外食や花見などもできなくなりとても残念に思っています。コロナ対策の作業が増える中、利用者の介助も大変だと思いますが、今後、以前のように出かける事もできるようになりますか。

A. 昨年、秋に一度コロナウィルスの感染がやや収まりかけた時に、紅葉ドライブに行きましたが、すぐにまた感染が拡大し、再び外出を自粛しました。

もういいのではないかと、思う時もありましたが、正直な所、高齢者が集団で外出をするという事への世間の目を気にしてしまいました。他のデイが外出をしているから、私たちが良いのでは、という判断でもいけないと思いました。

外出をすれば、トイレに行きたくなる人も多く、やはり不特定多数の方が使用されるトイレの利用は避けたいとの思いもあり、外出は自粛をしています。

今後は、冬に第6波が来ず、感染拡大が起きなければまた外出の再開を検討する、というお答えになります。

皆さん、足も弱っているので、フラワーパークなどへ散策に行ったり、喫茶店、お寿司屋さんへの外食に早くお連れできる日が来ることを私たちも切に願っております。

Q 3, コロナ禍で、私自身も母とのお出かけが出来なくなり、母と二人でゲームをしても盛り上がりには欠け、一人にしておくはずっとベッドで寝ているため、認知症が進んでしまうのではないかと心配をしました。そこでデイの回数を週5回に増やす事で、現状が維持できていると思います。感謝しています。週5回利用しているのは母だけと聞き、驚きました。他の方はデイサービスの利用がない日はどのように過ごされているのでしょうか。

A. デイのご利用がない日はほとんどの方が座ってテレビを観ているか、寝ていらっしゃるようです。日中独居の方は、家族の洗濯物を取り込んでたたまれる事以外は何

もされていないようです。つまり、一人で買い物に行ったり、お友達が訪ねて来られておしゃべりをされるレベルの方はいらっしゃらず、ご家族と一緒にないと行動ができない方がほとんど、という事になります。

・地域代表 岩根 様 よりの質問

Q 1, コロナ禍の中、通常の介護に加え、感染予防対策が必要となり、神経が休まる事がないのではと想像します。密を避けるために受け入れ人数を制限するようなことはあるのでしょうか。

A. すでにご利用をされている方に対して、利用回数を減らして頂いたりする事はありませんでした。他のデイサービスでは感染を恐れて休まれる方も多くいたと聞きましたが、ご利用者様から利用を自粛される方は有料老人ホームから通われていた方のみでした。(万が一感染を持ち込むとホームに迷惑がかかるという理由で)

また、日和に通われているご利用者様は、デイサービスを利用しないとご家族のお仕事や介護が大変である方がほとんど、という事もあり、自粛される方はいませんでした。

新規のお問い合わせがあった時は、空いている枠が満員にならないように調整をする事も検討をしていましたが、感染爆発の頃は新規の方の問い合わせも少なく、とくに調整をする事はありませんでした。

小規模デイのため、物理的にソーシャルディスタンスはとれない時が多々あります。

中重度の認知症の方以外はマスク着用が定着しており、アクリル板、消毒、こまめな換気などで予防をしてきました。引き続き予防の徹底をして参ります。

Q 2, 事故報告・ヒヤリハットの事例が克明に記録され、その後対策まで記載されていますこの検証を終えた後、スタッフ間の共有をどのように行われているのでしょうか。

A. 申し送りファイルに挟み、出勤時に目を通してもらいます。目を通したら、確認印を押すことになっています。そして、ヒヤリ・ハットが起きた時に出勤していない職員には口頭でも、その日に起きた事を詳細に報告をし、危機意識を持ってもらうようにしています。